

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21320027

研究課題名(和文) 礼拝空間における儒教美術の総合的研究

研究課題名(英文) General study of the Confucianism art in the worship space

研究代表者

守屋 正彦 (MORIYA, Masahiko)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：90272187

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円、(間接経費) 3,870,000円

研究成果の概要(和文)：儒教は、日本では古代より受容され、中国を中心とした東アジアでの一大文化圏を形成してきた。儒教は地域特有の文化と融合し、礼拝のあり方、また聖像やそれを荘厳する絵画・彫刻は、東アジアの、また日本の各地域に展開し、礼拝の「かたち」は、儀式のあり方、礼拝の諸像の形式や配置、また唱道する詩文や作法などに見られた。その表象について、本研究では東アジアのいくつかの孔子廟を調査し、地域間の文化の同一性と民族的な表現の相違について確認し、5年に及ぶ研究期間中に国際シンポジウムを開催するとともに、年次報告書を作成して研究成果を発信した。

研究成果の概要(英文)：Confucianism was received in Japan from the ancient times and formed a big cultural sphere in the east Asia led by China. Confucianism fuses with local culture, and the Confucius image in the worship space unfolds in east Asia and Japan. I investigated some temples of Confucius of the east Asia in this study and confirmed it about identity of the culture between areas and difference in national expression. I held an international symposium during a study period and I made an annual report and sent results of research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：東アジア 礼拝空間 孔子廟内陣の研究 儒教形象の地域的展開 形象の視覚イメージ

1. 研究開始当初の背景

儒教は、日本では古代より受容され、中国を中心とした東アジアでの一大文化圏を形成してきた。そして儒教美術は、東アジアの人々に共通の視覚イメージを形成し、また、それに関わる漢詩文は共有の思想の背景として今に続いている。東アジアの儒教文化はその国の宗教と関係する。例えば、わが国における孔子祭典は神式、あるいは仏式で執り行われる。近世以前には禅僧の教養として学ばれ、その後、幕府教学の樹立にあたって、その分離が唱えられ、のちに神道が神儒一致の考えを示すなど、礼拝のあり方が時代や地域によって変化している。儒教は地域特有の文化と融合もし、礼拝のあり方、また聖像やそれを荘厳する絵画・彫刻は、東アジアの、また日本の各地域に展開している。礼拝の「かたち」は、儀式のあり方、礼拝の諸像の形式や配置、また唱道する詩文や作法などに見られ、その表象を解釈すると、地域間の文化の同一性と、差異に見られる民族性が確認できる。しかし現状では、その解釈の基礎となるべき美術的表象、わが国における儒教美術の、網羅的な資料の調査、基盤となる研究が十分に行われてきたとは言いがたい。

最近の研究としては応募者による「礼拝空間における儒教美術の総合的研究」(基盤(B)、課題番号 21320027)がある。当該研究は儒教美術について、古典から近代美術資料について事例を挙げて研究したもので、本研究を行う以前には体系的な調査研究は行われてはこなかった。これに先行する日本美術史の範囲では土居次義「狩野山雪の歴聖大儒像」(『近世日本画研究』美術出版社 1970)、辻惟雄「狩野松栄筆廿四孝図屏風」(『美術研究』第 243 号 1966 年)、河野元昭「探幽と名古屋城寛永度造営御殿」(『美術史論叢』2,4,6 1988~90)など、諸賢による近世絵画の先行研究が見られ、また孔子の彫像では三山進「近世七条仏所の幕府御用をめぐって 新出の資料を中心に」(『鎌倉』第 80 号 1996)が近年の論考として新知見を示している。美術史による最初は「正信筆三聖ノ図」(國華第 4 号 1890)が早く、以後、これまでに凡そ 60 数編にいたる論文が著されてきた。多くは画題を解釈し、作品研究として貴重な論考と位置づけることができる。礼拝空間については鈴木三八男編『日本の孔子廟と孔子像』(斯文会 1874)が概説的な基礎文献として評価されている。また、中国、台湾、朝鮮での儒教美術の研究はけっして多いわけではなく、個人研究の域を出ない。儒教美術のカテゴリーとして「聖賢図」や「帝鑑図」、「三教図」など、それらに対する儒教観に立つ画題の註議も十分に行ってきたわけではない。

研究を進める過程で湯島聖堂大成殿の本尊である孔子像が中国で盛行した椅像あるいは立像ではなく、仏像の結跏趺坐を真似た胡坐像であったことに着目し、それが仏師によって制作されたことを確認した。このこと

は、中国の孔子像を典拠として造像をしたわけではなく、わが国の仏像の表現を借りた孔子像を案出したという結論を得、これを仮説として孔子廟内陣のあり方について研究を進め、現代の東アジア諸地域での儒教形象の地域的展開について、文化の同一性と、差異に見られる民族性を確認し、歴史的また地域的な文化伝播のあり方を総合的に研究することとなった。

2. 研究の目的

わが国における孔子祭典は神式、あるいは仏式で執り行われる。近世以前には僧の教養として学ばれ、その後、幕府教学の樹立にあたって、その分離が唱えられ、のちに神道が神儒一致の考えを示すなど、礼拝のあり方が時代や地域によって変化している。そのため本研究では、(1)表象的な造形としてのわが国の儒教美術の基盤となるデータ収集を第一義とし、(2)その調査資料を典拠として、わが国の礼拝空間における諸像の、また絵画の、表象的解釈により、わが国の儒教美術の、「かたち」の同一性と地域的、時代的特性を見出し、(3)これにより、将来、東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する総合的、国際的な比較研究を行い、わが国の儒教美術、その表象の解釈を通して研究拠点構築への基盤整備を進める。本研究の具体的な目的として、次の二点を掲げる。

(1)わが国の儒教美術資料、ならびに、これに関わる文献、先行研究を基盤資料として収集し、その基本データの集積、ならびに電子化をはかり、儒教美術に関わる研究者の共有としての利用化を図る。

(2)東アジアにおけるわが国の儒教美術の、「かたち」の同一性と地域的特性を解釈し、将来構想である、東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する国際的、学際的な研究拠点に向けた研究組織の形成をはかる。東アジアにおける儒教文化、その礼拝空間に見られる「かたち」の同一性と地域的特性を比較し、国際的な観点での研究拠点構築を念頭に、東アジア諸地域の儒教形象に関わる資料の、実地ならびに文献による悉皆調査に至る研究の方向性を見出すことを目的とした。

3. 研究の方法

我が国を中心に東アジアに展開した儒教文化とその礼拝空間に見られる「かたち」の同一性や、地域的特性を比較し、国際的な観点での研究拠点構築を念頭に、東アジア諸地域の儒教形象に関わる資料の、実地ならびに文献による東アジアにおける主要な地域について臨地調査をおこなう。東アジアに成立した儒教は孔子を始祖とし、紀元前 6 世紀にはじまる。大陸で先行しながらも、東アジアの半島、東シナ海を取り囲む島々は、未だ基本的な国家形態が完成する以前の状況であったため、大陸文化の先進性のもと、時系列で

変化しつつ、諸地域に伝播した普遍性がその特質にある。そのため大陸を囲む周辺諸国は国家形態が整う時に、漢字文化圏に包摂され、ほぼ同時期に儒教を受容したことが歴史的に首肯できる。ただ、大陸に於いても「焚書坑儒」で知られるように、儒教の採否は為政者によって大きく変化するが、周辺諸地域での展開も当初の受容、その後の為政者の軽重によって変化し、時とともに次第に孔子祭祀のあり方が諸地域の民族性に同化するようにならされていった。

そのため本研究は地域的な展開については、孔子廟の学術調査に加えて、仏教や道教遺構・遺物も合わせ調査を行い、孔子文化の展開について同一性と、民族性が反映した異化した形象を考証するための地域を担当する研究班を構成し、孔子廟、礼拝空間に見られる儒教形象の画像データを集積し、また復元研究等を行う。

(1) アジア地域に現存する聖廟あるいは聖堂の礼拝空間の悉皆調査・内陣における聖像・荘厳する形象についての画像データを収集する。

(2) 礼拝空間を思想的な観点から捉え、そのイメージの具体化としての礼拝空間について研究調査をおこなう。また地域に関連した仏教や道教の礼拝空間について調査を行う。

(3) 東アジアにおける孔子像及び聖像(彫刻)の悉皆調査を行い、画像データ・文献資料データを収集する。また地域に関連した仏教や道教の聖像についてのデータを収集する。

(4) 儒教イメージについて、文化史的観点から、資料調査ならびに文献調査を行い、文書ならびに映像資料の画像データを収集する。

(5) 孔子の祭典(釈奠)を荘厳する工芸調度について、資料調査ならびに文献調査を行い、画像データを収集する。

(6) 書籍・文書資料の所蔵を確認し、記録化を行う。

(7) 悉皆調査した地域に係る書籍等の積極的な収集ならびに複写を図る。

上記のアウトプットとして、調査データの電子化を行い、ホームページを作成し、進捗状況、研究成果を公開するとともに、また『東アジア儒教美術並形象資料調査報告書』を刊行して、当該研究に関わる研究者間での機能的な利用化、共有化を図る。

4. 研究成果

研究成果は形象を解釈する事例研究にとどまっており、諸学と協働しての形象解釈を研究の中心に置いていないため、東アジア儒教文化の統覚的研究が成熟して来なかった。しかし、儒教文化圏は漢字文化圏とほぼ同心円的な広がりを見せており、本研究によって、人文及び周辺諸学がより立体的に学術文化交流できる研究指標を見出しうる。東アジア、

とくに漢字文化圏が広がった諸地域に孔子廟の存在が窺えるところから、その礼拝空間を形象的に解釈することで、地域文化の新たな研究モデルが創出できる。また、本研究が形象解釈を通して文化の同一性と、地域における差異を明らかにするところから、次世代に向けた東アジア学術交流の新たな意義が見出せる結果となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計23件)

守屋正彦「近世における儒教美術の展開について」、『礼拝空間における儒教美術の総合的研究 日本の儒教美術』、査読無、2014、9-23頁

山澤学「將軍徳川家宣の「家」と先祖祭祀」、『礼拝空間における儒教美術の総合的研究』調査報告論文集』、査読無、2014、27-41頁

守屋正彦「千葉県立佐倉高等学校所蔵《木造孔子坐像》について」、『礼拝空間における儒教美術の総合的研究』論文集』、査読無、2012、9-76頁

井川義次「西洋における孔子文化の影響」、『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』(『礼拝空間における儒教美術の総合的研究』2011) 査読無、2012、37-66頁

守屋正彦「日本湯島聖堂と中国孔子廟について」、『礼拝空間における儒教美術の総合的研究報告書』第1回中華人民共和国孔子廟視察報告』、査読無、2010、63-70頁

〔学会発表〕(計6件)

守屋正彦「我が国における儒教美術の受容」、『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』2011年8月5日、会場:湯島聖堂講堂(東京都)

井川義次「西洋における孔子文化の受容」、『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』2011年8月5日、会場:湯島聖堂講堂(東京都)

柴田良貴「湯島聖堂大成殿孔子並びに四配像の復元制作」、『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』2011年8月5日、会場:湯島聖堂講堂

木村浩「湯島聖堂大成殿内部空間の再現」、『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』2011年8月5日、会場:湯島聖堂講堂(東京都)

藤田志郎、程塚敏明「賢儒画像扁額の模写及び復元制作」、『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』2011年8月5日、会場:湯島聖堂講堂(東京都)

菅野智明「虞世南 孔子廟堂碑 原拓想定の視点」、『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』2011年8月5日、会場:湯島聖堂講堂(東京都)

〔図書〕(計2件)

井川義次、人文書院、『宋学の西漸』、2009年、536頁

山澤学、思文閣出版『日光東照宮の成立
近世日光山の「荘厳」と祭祀・組織』2009年、394頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~hikom/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

守屋 正彦 (MORIYA, Masahiko)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：90272187

(2) 研究分担者

井川 義次 (IGAWA, Yositsugu)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：50315454

山澤 学 (YAMASAWA, Manabu)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：60361292

柴田 良貴 (SHIBATA, Yoshiki)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：90178913

藤田 志朗 (FUJITA, Shirou)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：10181356

木村 浩 (KIMURA, Hiroshi)

筑波大学・芸術系・准教授

研究者番号：60241808

菅野 智明 (KANNO, Chiaki)

筑波大学・芸術系・准教授

研究者番号：90272088

程塚 敏明 (HODOTSUKA, Toshiaki)

筑波大学・芸術系・准教授

研究者番号：40292544